

介護福祉領域における職能団体についての意識(2) ——山口県介護福祉士会会員へのアンケート調査から——

山内朱美¹，伏谷昇造²，藤田大介³，三吉智美⁴，田村真智子⁵

1) 2) グリーンヒル美祢 3) 幸嶺園 4) 5) 田代台病院

I. 研究目的

職能団体とは「(医師会・弁護士会など) 特殊技能や資格を必要とする職業ごとに組織された団体」¹⁾である。介護福祉士会は、職能団体への加入の義務付けはされていないが専門職として資格の取得がゴールではなく、資格取得後も「資質向上の責務」(社会福祉士法及び介護福祉士法第47条の2)があり、知識や技術の向上など自己研鑽に努めなければならない。

日本介護福祉士会は1994年に設立された。山口県介護福祉士会は1992年に設立され、2011年9月に一般社団法人化された。全国3位の加入率(14%)²⁾を誇り、日々資質の向上を目指し努力をしている。しかし、加入率は十分とはいえず他の職種と比較してみると、看護師の看護協会では57%(2010年度)³⁾、作業療法士の作業療法士協会では95%(2011年度)⁴⁾と、職能団体への意識の違いが明確になっている。

そのような背景から、山口県介護福祉士会会員にアンケートにて、入会した理由、介護福祉士会に期待する役割、今後の継続の意思等、職能団体についての意識調査を実施した。今後の組織率向上の参考とし、職能団体としての役割が果たされているか検証するために調査を行った。

II. 研究方法

1. 対象

2010年10月時点で山口県内の介護福祉士会会員1,722名。

配布数1,722、回収数746、回収率43.2%

有効回答数744、無効2、有効回答率43.2%

2. 調査方法

文書により調査目的と方法について説明し、任意無記名での自記式質問紙調査を実施した。回収はFAX送信としたが、回収率が低かった為、当初の回収期限後、追加的に留置式調査を実施した。留置式調査については、山口県内の事業所55ヶ所(山口県介護福祉士会会員が確認されている事業所を抽出)にて、

研究メンバーを中心に山口県介護福祉士会役員の協力を得て回収を行った。

3. 調査実施期間

(1) 郵送調査

2010年10月12日～11月12日

(2) 留置調査

2010年12月10日～2011年1月31日

4. 主な調査内容

基本属性、介護福祉士会への入会理由、入会しての感想、介護福祉士会への関与度、介護福祉士会へ期待する役割、介護福祉士会会員継続の意思などの項目について調査した。

5. 調査に際しての倫理的留意

調査実施に際しては、調査対象者への調査目的の説明を書面にて行った。調査データの取り扱いに際しては、対象者のプライバシー保護に留意し、研究者のみが管理し研究以外の目的には使用しないことを書面にて説明した。

6. 分析方法

アンケート調査のデータを、単純集計およびクロス集計で示した。

III. 結果

1. 基本属性

性別は、女性579名(77%)、男性162名(22%)、となっている。

年齢別でみると、20代・177名(24%)、30代・209名(28%)、40代・136名(18%)、50代・162名(22%)、60代・42名(6%)となっている。平均年齢は40歳であった。

所属している事業所別でみると、特別養護老人ホーム・267名(36%)、病院・145名(19%)、老人保健施設・110名(15%)、身体障害者施設・46名(6%)、ケアハウス・4名(1%)、グループホーム・23名(3%)、訪問介護・68名(9%)、デイサービス・18名(2%)、養護老人ホーム・12名(2%)、その他・39名(5%)であった。

介護福祉士の会員継続年数は、3年未満・230名(31%)、3～7年未満・241名(32%)、7～11年未満121名(16%)、11年以上・82名(11%)、無回答・70名(10%)であった。平均は5年であった。

勤務先の市町村名は多い順から下関市、山口市、宇部市、萩市、美祢市であった。

2. 介護福祉士会へ入会理由について

図1によれば、山口県介護福祉士会へ入会した理由として最も多かった回答が、「必要な情報を得るため」(44%)、次いで「専門職として資質を高めるため」(38%)、「専門職として入会が必要だと考えたから」(36%)、「勤務先の上司・先輩の勧めで」(32%)などとなっている。

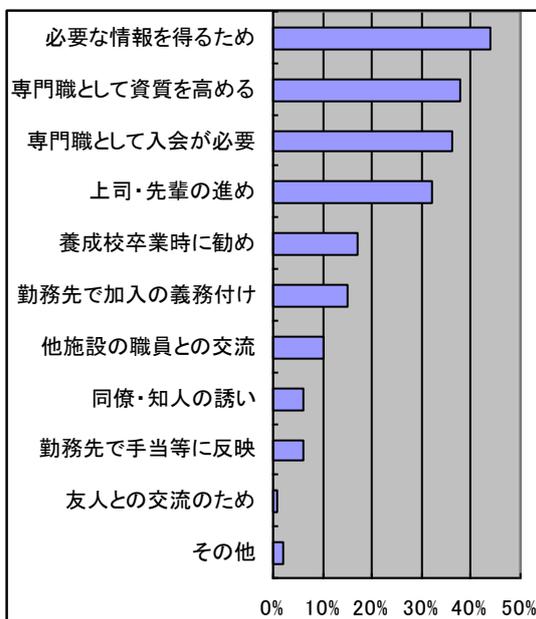


図1 介護福祉士会への入会理由(複数回答)

3. 介護福祉士会の存在を知った時期と入会時期

介護福祉士の存在を知った時期として最も多かった回答は、「資格取得後すぐに」331名(44%)で次いで「資格取得前」306名(41%)であった。「資格取得後」に存在を知った時期を見ると1ヵ月の人が最短で、17年6ヶ月の人が最長であった。平均は4年6ヶ月であった。

また、介護福祉士会への入会時期については、「資格取得後すぐに」が445名(60%)であった。資格取得後に入会した時期を見ると1ヵ月の人が最短で、19年の人が最長であった。平均は4年であった。

4. 介護福祉士会の存在を知った理由

図2によれば、介護福祉士会の存在を知った理由については「勤務先の上司・先輩の紹介」が394名(54%)と最も多く、次いで「養成校の紹介」225名(30%)、「同僚・友人の紹介」78名(10%)などであった。

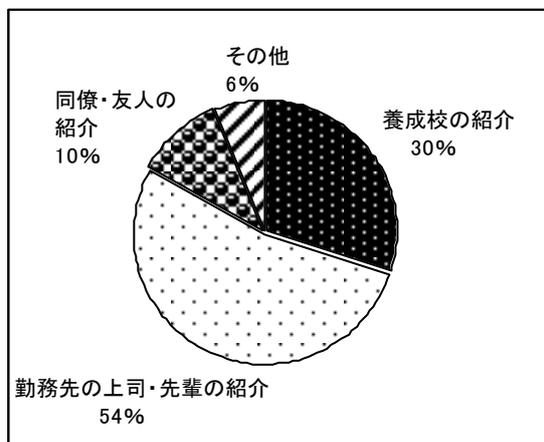


図2 介護福祉士会の存在を知った理由

5. 入会しての感想

図3によれば、介護福祉士会に入会してよかった点として、最も多かった回答が「研修会に参加し勉強ができスキルアップが図れる」(62%)、次いで「他の事業所の職員と交流や情報交換ができる」(31%)、「県や国から専門職として必要な情報が入手できる」(30%)などとなっている。

一方、図4によれば介護福祉士会に入会して良くなかった点については、「年会費、研修参加費などお金がかかる」(45%)、「参加したい研修があるが、勤務の都合がつかず参加できない」(34%)、「研修に参加すると自分の休日が減る(20%)」などとなっている。

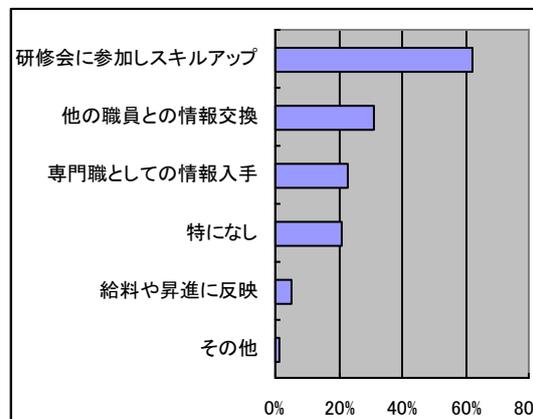


図3 介護福祉士会へ入会して良かった点(複数回答)

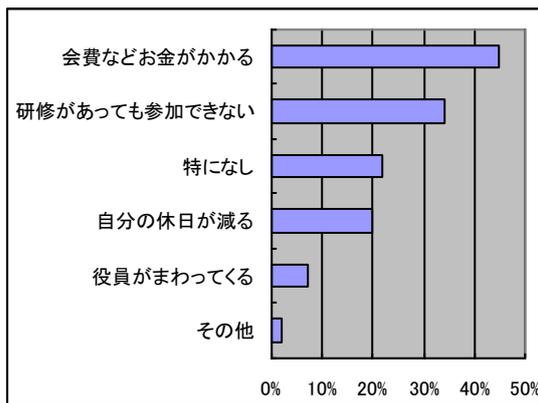


図4 介護福祉士会へ入会して良くなかった点 (複数回答)

6. 介護福祉士会への関与度について

図5によれば、現在における介護福祉士会の関与度について、最も多かった回答が「介護福祉士会主催の研修会や講演会へ都合がつけば参加している」(49%)、次いで「介護福祉士会の会員ではあるが、殆ど研修会や講演会等に参加していない」(41%)、「介護福祉士会の役員をしたことがある、または現在役員をしている」(10%)、「介護福祉士会主催の研修会や講演会へ積極的に参加している」(8%)などとなっている。一方、継続年数別でみると7年未満の会員は「殆ど参加していない」が多く、7年以上の会員は「都合がつけば参加」、「積極的に参加」、「役員経験がある」が相対的に多かった。

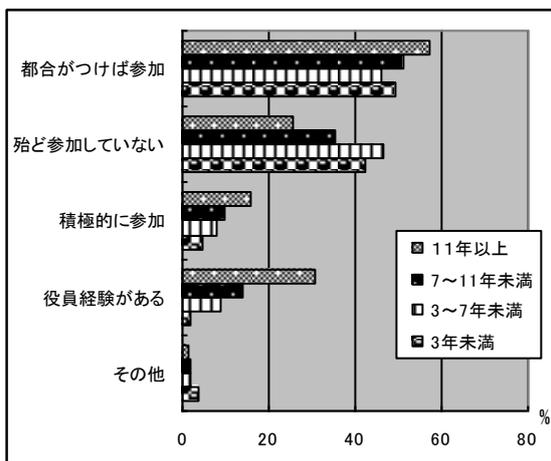


図5 継続年数別介護福祉士会への関与度 (複数回答)

7. 介護福祉士会に期待する役割について

図6によれば山口県介護福祉士会へ期待する役割については最も多かった回答が「労働条件の整備等、長期に働ける支援」(64%)、次いで、「専門職としての自己意識向上に関する活動」(39%)「介護福祉士が職能団体として認識されるための活動(基盤強化・整備)」(36%)、「生涯教育・研修体制」の充実(32%)などとなっている。

図7によれば継続年数が7年未満の会員は「介護福祉に関する研究活動の推進」や「労働条件の整備等、長期に働ける支援」を期待している。一方、7年以上の会員は「労働条件の整備等、長期に働ける支援」、「生涯教育・研修体制の充実」、「介護福祉士が職能団体として認識されるための活動(基盤強化・整備)」を期待している。

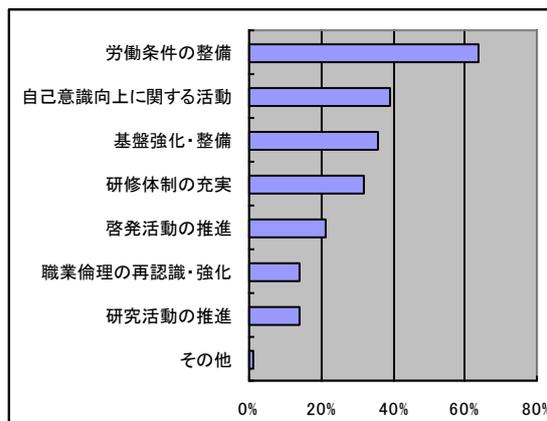


図6 介護福祉士会に期待する役割 (複数回答)

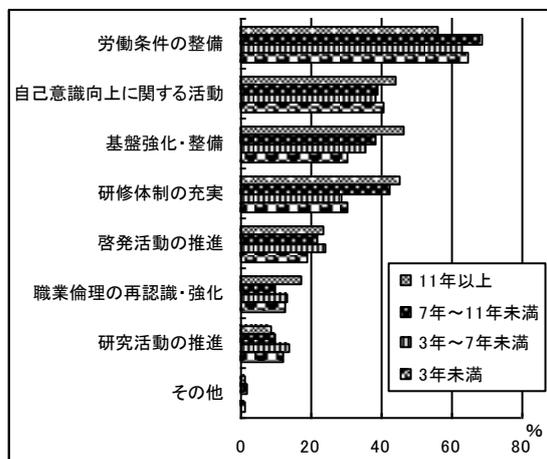


図7 継続年数別介護福祉士会に期待する役割 (複数回答)

8. 介護福祉士会会員の継続について

今後も介護福祉士会の会員を継続したいと思うか、思わないかとの質問に、継続したいと思うと答えた方が573名(77%)、継続したいと思わないと答えた方が158名(22%)であった。また、図8によると介護福祉士会の会員を継続したくない理由として最

も多かった回答が、「年会費や研修会の参加費がかかるから」103名(65%)、であり、「休みの都合がつかず研修会や講演会の参加が難しいから」49名(31%)、「会員になっていても給料に反映しないから」39名(25%)となっている。

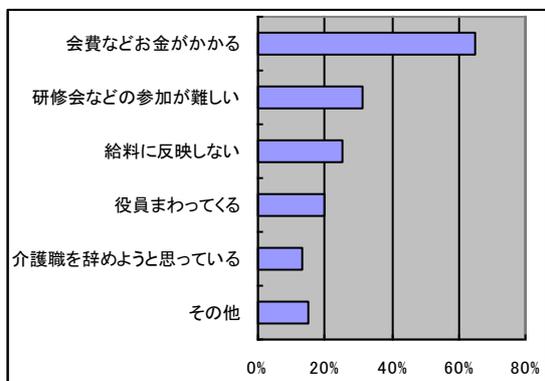


図8 介護福祉士会を継続したくない理由
(複数回答)

IV. 考察

今回、アンケート用紙を介護福祉士会から定期的に発送される封筒に同封させて頂いたのだが、回収期限内に5%(88名)しか回収できなかった。「封筒を開けていない」「封筒を開けずに捨てた」「アンケートがありましたか?」等の声を聞き、会員の介護福祉士会からの便りに対する関心の低さが浮き彫りになった。介護福祉士会からの広報誌等が、会員への関心を引き立てるツールとなるものと同時に、会員自身をもっと自覚を持つ必要があると思われる。

アンケート結果から、今後も介護福祉士会を継続したいと考えている人は77%であり、資質を高めるために専門職として必要だと感じ高い志を持っていると考える。

一方、継続したいと思わないと回答した人は22%であった。勤務先の上司や先輩の勧めで入会したものの、お金がかかり参加したい研修があっても勤務の都合がつかず参加できないという傾向が伺えた。この結果から、各事業所の理解と支援の元で介護福祉士会の活動の都合をつけやすくし、同僚の理解を深め、研修費等の金銭面のサポートを受ける事などの環境面を整えることにより、今後も継続していける可能性が高いと思われる。

また、研究目的において述べたように山口県介護福祉士会の加入率は全国平均に比べ、高くなっているが、こうした状況の背景には専門職としての自己研鑽、情報収集、上司・先輩からの勧め、事業所の

義務付けが多かった。事業所全体で介護福祉士の資質の向上に取り組み、介護福祉士会に期待している事業所が多く存在するからではないかと考える。

V. 結論

今回の調査を通して、介護福祉士会に入会した理由は、専門職としての必要な情報収集や資質を高めるため等キャリアアップの意識が高く、介護福祉士会に期待する役割は、労働条件など長期に働ける支援が必要と考えている会員が多かった。さらに、会員継続年数が増すことで研修会等の介護福祉士会への関与度が高くなることが確認された。

労働条件の整備・改善や介護福祉士の地位向上は誰も願うことは一緒である。しかし、他人まかせではなく有資格者一人一人が意識を変容させ一丸となって取り組み、行動を起こすための場が必要である。介護福祉士会とはそのような場として有力な存在なのであり、今回の調査結果を踏まえより満足度の高い組織となることが望まれる。

介護福祉士の労働条件の整備や長期的キャリア、展望が図れるような支援について介護福祉士会が明確な立場を打ち出すことが必要であろう。

謝辞

本研究にあたり、アンケート調査に御協力くださった関係事業所の責任者及び介護職員の皆様に深く感謝いたします。

また、ご指導いただきました矢原隆行先生、福井祐介先生に心からお礼申し上げます。

引用・参考文献

- 『大辞林 第三版』株式会社三省堂
- 山口県介護福祉士会役員会資料(2011年3月)
- 社団法人山口県看護協会 2010年度通常総会資料
- 社団法人山口県作業療法士協会 事務局調査(2011年2月)
- 山内朱美他(2011)「介護福祉領域における職能団体についての意識」『第4回山口県介護福祉士会介護研究セミナー研究発表会抄録』
- 浅井タツ子他(2011)「介護福祉士会の現状と活性化の方向」『第9回日本介護学会予稿集』
- 本間美幸・八巻貴穂・佐藤郁子(2008)「介護福祉士の専門性に関する研究～福祉施設介護職責任者の意識調査から～」『人間福祉研究』No. 11, p 39-49